

# 読書のすゝめ

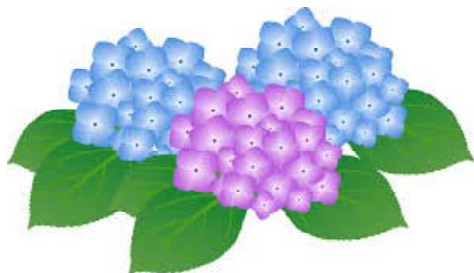
その12

H 29 6 / 22

## 6月23日は沖縄県慰霊の日です

沖縄戦は、20万あまりの尊い命と、沖縄の文化財、自然をことごとく奪い、太平洋戦争で、唯一、一般住民を巻き込んだ地上戦です。沖縄戦における20万人を越す戦死者のうち、約半数に近い、じつに9万4000人余りの戦死者が、兵隊以外の一般県民や子供です。この沖縄戦で、沖縄防衛第三十二軍司令官牛島満中将と同参謀長の長勇中将が糸満の摩文仁で自決した日が昭和20年6月23日の未明とされています。この日を、日本軍の組織的戦闘が終了した節目としてとらえ、沖縄慰霊の日が制定されました。

本校では修学旅行で沖縄を訪れています。沖縄の歩んできた歴史をしっかりと学び、これからの沖縄、日本を考えていきたいと思います。



### 『白旗の少女』比嘉 富子 (講談社)

太平洋戦争末期の沖縄本島の南部。この日本最大の激戦地で、逃亡の途中、兄弟たちとはぐれたわずか7歳の少女が、たった一人で戦場をさまようことになった。しかし、偶然めぐりあった体の不自由な老夫婦の献身で、白旗を持って一人でアメリカ軍に投降し、奇跡的に一命をとりとめた。この少女の戦場での体験をおった愛と感動の記録。



仲宗根政善



『ひめゆりの塔をめぐる人々の手記』仲宗根政善 (角川書店)  
「この記録は文学でもなく、生き残った生徒の手記を集めて編纂した実録であり、氏名も日時も場所も正確を期した。肉親のかたがたには、娘や妹の面影をしのんでいたただけなら幸いである。(まえがきより)」

太平洋戦争の末期、日本国土で唯一戦場となった沖縄。中でも悲惨をきわめたのは、従軍看護婦として戦争に参加したひめゆり学徒たちの最後であった。16歳から20歳までの若い彼女たちの悲劇を引率教師であった著者が、奇蹟的に生き残った生徒たちの手記を集め、自らの体験と照応させて綴った戦争の実録である。

### ☆計報 元沖縄県知事の大田昌秀氏

6月12日午前、那覇市内の病院で死去した。92歳。

鉄血勤皇隊の一員としての体験を原点とし「沖縄人とは何か」を説明することは、沖縄の言論、思想史を説明することであると結論付け、研究を重ねた。一方、沖縄返還が実現する以前から各種雑誌に沖縄問題に関する論陣を張り、発言を続けた。

鉄血勤皇隊は、沖縄戦で大日本帝国陸軍がおこなった防衛召集により戦闘に動員された14〜17歳の中学生を中心とした学徒隊(少年兵部隊)です。少年兵は、人道に反するものとされますが、沖縄戦では、たくさんの少年兵が、戦闘に駆り出され、そして、戦死しました。沖縄の中学生達が、爆弾を背負って戦車に突撃するなどして、約1200人(そのうち鉄血勤皇隊は約890人)が戦死しました。

図書館には修学旅行文集がありますので、2年次生は参考にしてください。



ひめゆり平和祈念資料館



沖縄戦の図(丸木位里・俊)